



日本語を勉強している人たちがいたので、娘とボランティアで週に1回通って日本語を教えました。

アメリカでいろいろな勉強をさせていただいて日本へ帰ってきました。そして聴導犬を育てよう、という思いで一生懸命がんばろうと思っていました。まず第1号の聴導犬を認定したのは市営住宅でした。市営住宅は動物を飼ってはいけません。私は鹿児島市に、これは聴導犬ですから許可してほしいとお願いしました。そして、その聴覚障害の人に、もし鹿児島市が許可したら聴導犬という大きなシールを玄関に張ってくださいとお願いしました。でも行政は「日本に市営住宅に住んでいる聴導犬は一匹もいません」。いるはずないです。今から育てる段階ですから。だから許可をもらえなかったのです。ペットの扱いでした。情けないなあ。アメリカへ行った時に「日本はどうして盲導犬だけ育てているのですか」と聞かれました。盲導犬は鹿児島でも15年前から無料で給付されています。600万の予算がついています。アメリカの人に「どうして日本の人は、耳の聞こえない人、目の見えない人、体の不自由な人、心の支障がある人の障害を差別しているのですか。ランク付けしているのですか」と尋ねられました。「そうじゃないです」。私はそれしか答えられませんでした。目の見えない人も耳の聞こえない人も、障害を持っている人はみんな一緒だから、盲導犬が許されているなら聴導犬も許してほしい。何回も何回も行政に立ち寄りました。でも、前例がない、法律で決められてない、そればかりでした。

また、聴導犬を育てる過程では20時間の公共の場での訓練が必要なのです。食堂に行ったり、デパートに行ったり。いろんな所へ行く訓練をしなければいけません。私はまず県庁をお願いに行きました。エレベーターもあるしエスカレーターもある。人もいっぱいいるので、県庁で訓練できたらきっといい聴導犬ができるだろうと思ってお願いに行きました。でも、迷惑をかける、みだりにおしっこすると、県庁の方はいい答えをくれませんでした。こういうものかと思いつつ、今度は民間にお願いしようと思いつつ山形屋に尋ねました。山形屋はデパートです。「いいですよ」。私は嬉しくて、その日初めて山形屋の訓練に出かけました。定員さん、いろんな方々が力を合わせて訓練をさせていただきました。それが大きく新聞の1面に載りました。次に市営と市電にお願いしたら、山形屋がOKしたので「いいですよ」と交通局もOKしてくれました。

私が聴導犬を始めようとした時は平成8年でした。そしてここに今日、大迫社長さんがいらしていますけど、

皆さんリビング新聞はご存じですね。私が聴導犬やアニマルセラピーについて南日本新聞に載せてほしいと頼んだところ「この2、3年ペットブームになりましたが載せることはできません。犬の糞などいろいろなことは着物の着付けといっしょだ」と言われました。そんなものかと思っていたら、たまたま管理センターから飼い犬を引き取りにいらした大迫社長さんとお会いして「私のところでよければ無償で載せてあげますよ」と言ってくださいました。それからずっといろいろなイベントを通して載せてもらっていることに、本当に深く感謝しております。「前例がない」。本当に悲しいことでした。

そうしているうちに、やっと昨年、身体障害者補助犬。皆さんご存じでしょうか。盲導犬、聴導犬、介助犬と一緒に身体障害者補助犬という法律ができました。同じレベルになってきました。やったー！と思いましたが、これから聴導犬をいっぱい育てようと思っていたら、厚生労働省から「1億円お金が要りますよ」。何でなんだろうと思っていたら、個人ではできない、ボランティアでは育てることはできない、社会福祉法人財源が1億円ないといけなと言われてきました。1億円…途方に暮れていました。しばらくしたら、やはりハードルが高すぎるということで1千万以上の財源があればできることになりました。でも私はこれまでいっぱい使い果たしてしまいました。それでもうスッカスカ。どうしよう1千万円以上。訓練所も立てなければいけません。鹿児島市、県庁にも「空いている土地があったら貸してください」と何回もお願いしましたけど「そういう土地はないです、前例がないです」と断られてしまいました。やっと3週間位前、県庁から「鹿児島で聴導犬を育ててもいいですよ」と許可をもらいました。8年間で初めてです。でも聴導犬は育てられても法人をとらなければ認定できません。認定をもらおうと思ったら、よその社会福祉法人に聴導犬を連れて行かなければいけません。それには認定料が15万。宿泊料、諸経費が何十万かかかります。そんなだったら私たち育てることができない。そう思っているところなんです。鹿児島でいっぱい育てて、鹿児島から聴導犬をたくさん欲しい人に渡してあげたい気持ちはありますが、先立つものがありません。でもコツコツコツ活動を続けていけば、いつかは大きな光が私のところへ来るのではないかと、がんばっております。

先ほど学生が手話をやっていると言っていました。私が聴導犬を育てようと言った時に、鹿児島国際大学の手話同好会の学生が私の訓練所に駆けつけてくれました。「僕たちに、私たちに何かお手伝いできることはないですか」。「それなら一緒にたくさん聴導

犬が育てられるようにがんばっていこう」と言って、学生たちが卒業しても先輩後輩つながってずっと今まで一緒に活動してきています。今日はたくさん学生も来ています。いろんなイベントも学生と一緒にやっています。そして、どうしても両親と一緒に生活できない児童施設があるのですが、その子どもたちとも一緒に聴導犬育成などイベントをやっております。ですから、これからまだまだ大変な道はありますがコツコツやれば、と思っています。

そもそも聴導犬は何をするのか。盲導犬はわかるけど、耳の聞こえない人にどうやって犬が教えられるのだろう。多分おわかりにならないと思います。そこで今日はビデオを見ていただいて、聴導犬のことをよく知っていただきたいと思います。これからまだまだ私たちの活動報告と、後ろにかわいい犬たちがいっぱい来ています。とっても静かです。おりこうさんで、とってもかわいい犬たちです。見てあげてほしいと思います。それでは、これからビデオを見ていただきたいと思います。ありがとうございました。

(ビデオ上映)

今のは訓練中の様子ですので、2年前に鹿児島県がとってくれたビデオです。ビデオに登場したヒサモリ君は捨て犬でしたが、立派な聴導犬になっています。身体障害者補助犬法ができたお陰で今はデモンストレーションとしてがんばっております。それでは今から、私たちエンゼル聴導犬協会がどういう活動をしているのか、聴導犬にはどんな犬がなれるのかということ、娘が説明させていただきます。

皆さん、こんにちは。エンゼル聴導犬協会聴導犬のトレーナーをしております石原涼子と申します。今からエンゼル聴導犬協会についてご紹介致します。平成11年5月29日に発足致しました。まずはエンゼル聴導犬協会の履歴を簡単にご紹介致します。アメリカの聴導犬協会聴導犬の訓練士と認定の資格を取得致しました。そして九州で初めての聴導犬協会を設立し、第1号の聴導犬を認定致しました。聴導犬の公共訓練も九州で初めて実施、そして鹿児島で初めてのアニマルセラピーの実施、セラピードッグ・セラピストの認定、セラピードッグ・セラピーキャットの給付、犬猫の里親活動、鹿児島でリタイアした盲導犬の里親活動を行いました。

エンゼル聴導犬協会の主な活動を紹介します。聴覚障害者福祉、動物福祉、児童教育などこれら



のテーマを掲げ、聴導犬育成、啓蒙活動、セラピー犬の育成と認定、ドッグセラピストの育成と認定、アニマルセラピー、パピークラス、ドッグフェスティバル、ドッグウォーク、犬猫の里親活動、アニマルレスキュー、手話の勉強会など活動をしております。

では聴導犬についてご説明致します。聴導犬とは、聴覚障害者の心と体のパートナーであり、ドアチャイム、ファックスの受信音、目覚まし時計、火災報知器、キッチンタイマー、赤ちゃんの鳴き声などを知らせます。聴導犬は平成14年にやっと国に認定されたばかりなので、現在日本では15匹位しか活躍しておりません。アメリカには約5000匹、イギリスには約850匹の聴導犬が活躍しております。ちなみに盲導犬は日本で約900匹活躍しております。

エンゼル聴導犬協会の聴導犬育成についてご説明致します。聴導犬の候補となる犬は、処分される運命だった動物管理センターなどの犬から適性を見て選定されます。犬種は問いません。訓練所での訓練期間は約1年です。1匹につき約80万の訓練費用が必要です。これらの訓練費用は募金活動や募金箱、寄付金などで賄っております。聴導犬ユーザーへの給付は無償です。当協会ではバスや電車、デパートなど公共施設での訓練も必ず実施しております。それでは先ほどビデオでも活躍しておりました、ある1匹の犬の成長を見ていただきます。迷子犬だったヒサモリという名前の犬です。平成13年6月、山の中でさまよっていた迷子犬を保護致しました。保健所へ引き渡すと、飼い主が現れなければ約1週間で処分されてしまいます。そこで、この犬を警察へ届け拾得物にし、6ヶ月間預かることにしました。その際、お世話になったお巡りさんの名前をいただき、ヒサモリと名付けました。拾得期間中、健康診断をしてワクチンの摂取を致しました。残念ながら飼い主が現れませんでしたので当協会が正式に引き取りました。そしてヒサモリ君の心の傷を癒しながら基本的なトレーニングをし、聴導犬のトレーニングにも入っていました。

ヒサモリ君は第2の人生を楽しむかのように、みるみる成長していき基本訓練、聴導犬訓練の他にも公共訓練もがんばりました。バスの訓練、電車の訓練、デパートの訓練です。

聴導犬は日本にまだ15匹しかおりません。それはなぜなのか。ここで聴導犬の現状を説明致します。以前、聴導犬は国に認められていませんでしたので、ペットと同じ扱いでした。聴導犬が欲しくても、市・県営住宅やマンションなど犬禁止のところだと、聴導犬はペットと同じなので住むこともできません。レストランやデパートなどへの立ち入りもできない状況です。また育成費の問題など数多くの壁があり、聴導犬の育成は盲導犬と比べて遅れておりました。しかし平成15年5月23日、身体障害者補助犬法が可決され、盲導犬、聴導犬、介助犬が同じ補助犬として国に認定されました。しかし今後、聴導犬を育成し認定するには社会福祉法人を取得しなければならず、この設立のためには1千万円以上の資金が必要になってきました。小さなボランティアでは聴導犬を育成、認定できなくなっておりました。

この写真はお世話になったお巡りさんのヒサモリさんと聴導犬の訓練犬ヒサモリ君です。現在ヒサモリ君は聴導犬のデモ犬として様々なところで活躍しております。現在は社会福祉法人設立のためがんばっておりますので、聴導犬育成にご理解とご協力をお願い致します。

それでは次にボランティアグループ、エンゼルについてご紹介します。平成9年に発足し、スタートしたエンゼル聴導犬協会のボランティアグループです。鹿児島で初めてのアニマルセラピーを実施し、平成14年には全国でもあまり例のない統合失調症患者への医療活動を開始し、昨年の平成15年からセラピー犬とセラピストの認定も行ってあります。私たちは老人ホームや身体障害者施設などたくさんの方を訪ねております。私たちが行っているアニマルセラピーには2通りの活動があります。老人ホームなどを訪問するアニマルアシステッドアクティビティといわれる動物介在活動。統合失調症患者の医療の分野でアニマルアシステッドセラピーといわれる動物介在療法です。これらは生理的効果、精神的効果、社会的効果があります。セラピー犬の適性は健康管理がきちんとされている犬、人間が大好きな犬、基本的な躰ができていて、屋内でむやみに排泄しない犬、人になでられるのが大好きな犬、どこを触っても嫌がらない犬、他の犬と仲良くできる犬、むやみに吠えない犬などです。ボランティアグループ、エンゼルのセラピー犬は飼い主

と一緒に楽しく活動でき、人が大好きで他の犬とも仲良くでき、正しく躰られた犬です。

エンゼル聴導犬協会では、犬の早期教育によりセラピー犬を育成するために、子犬の躰教室を行っております。そして犬と飼い主が互いに尊敬し合える絆を築き、優秀家庭犬であるコンパニオンドッグ、セラピードッグへと成長していきます。

エンゼル聴導犬協会では、セラピー犬とセラピストの育成と認定を行っております。適性のある躰教室の卒業犬、及び一般家庭犬がセラピーの研修に入り、犬同士のコミュニケーションやセラピーについて学習しながら経験を積んでいきます。そして当協会が正式にセラピー犬、飼い主をセラピストとして認定し、認定書を発行致します。現在、正式に認定され活躍しているのは12匹です。他にもセラピー犬の研修犬としてがんばっている犬たちがたくさんおります。これからもセラピーの活動をがんばりますので私たちを応援してください。

それでは他の活動もご紹介します。エンゼル聴導犬協会ではモラル向上を目的とし、鹿児島県と鹿児島県獣医師会の後援で年2回のドッグフェスティバルを開催しております。来月の11月14日には第8回ドッグフェスティバルを喜入の森で開催致します。喜入の森は通常は犬禁止のところですが、イベント趣旨をご理解いただき開催することになりました。犬を飼っておられる方はぜひお越しください。それと他にもモラル向上を目的とし、ドッグウォークを開催しております。愛犬と一緒にモラル向上を呼びかけ、放置糞を始末しながら歩きます。第1回のドッグウォークは甲突川を歩きました。

私たちは犬や猫の里親活動も行ってあります。動物管理センターの犬、事情で飼えなくなった犬猫などを里親に出しております。他にも動物管理センターの犬を選定し鹿屋農業高校へ給付したり、リタイアした鹿児島第1号の盲導犬の里親活動も実施しました。動物管理センターでは数多くの犬や猫が毎年処分されています。鹿児島市でも毎年犬が700匹、猫が2000匹処分されています。

聴導犬の育成やアニマルセラピー、里親活動などエンゼル聴導犬協会のすべての活動は、児童教育にも大きな影響を与えてあります。総合学習、自主学習、イベント参加や修学旅行の受け入れなどで、聴導犬、セラピーへの啓蒙活動、障害者福祉、動物愛護、動物福祉、人間と動物の共存、そして命の大切さなどを伝えてあります。エンゼル聴導犬協会ではこれからも「人間と動物が良きパートナーとして過

せる社会を作ろう」をテーマにがんばってまいりますので、私たちの活動にご理解とご協力をお願い致します。

ありがとうございました。私たちは本当に無償のボランティアで活動しています。これからも一生懸命ががんばっていきたく思います。先ほど紹介しましたが、もう7年も私を支えてくれている学生の皆さんが手話コーラスしてくれます。とっても素晴らしいです。月1回、私はこの学生たちから手話を学んでいます。よろしくお祈りします。

(手話コーラス)



こんにちは。先ほど手話をさせていただきましたが、この手話コーラスを2曲させていただいたみんなは鹿児島国際大学の手話同好会のメンバーです。私たち手話同好会は、石原さんを中心とするエンゼル聴導犬協会の方たちと協力して聴導犬育成のお手伝いをするためにドッグフェスティバルや、福祉ふれあいフェスタなどのお手伝いをしています。その他にも、石原さんたちと一緒に手話講習会をしています。これからも石原さんたちと一緒に協力してがんばっていきたく思いますのでよろしくお願い致します。ありがとうございました。

私はこの若いエネルギーをもらってがんばっております。ありがとうございました。それでは後ろでかわいい犬たちが、1時間だまっておりますので、ここで紹介したいと思います。犬たち、どうぞ。私たちは老人ホーム、児童施設、身体障害者施設に鹿児島で初めてアニマルセラピーを始めて8年になります。そして心の障害ある精神統合失調症の患者さん方への心のケアとして、日本で初めてのアニマルセラピーを2年がんばっております。全く無償でがんばっております。こういう犬たちが心を癒します。私は犬を通して大きな財産をたくさん得ています。オレンジを着ている私たちはセラピストとしての認定を受けた者たちばかりです。

犬たちはきれいなお洋服を着ています。どうでしょう。かわいいでしょう。お座りできましたか。この犬たちは、まず健康管理がしっかりしているということと、それから人にどこを触られても絶対に嫌がりません。それからおしっこをしません。大きな犬も小さな犬も動物同士仲良くできます。そして喜んで参加します。嫌々ながら参加する犬はセラピー犬にはなれません。こういうものをいくつかクリアした犬です。そしてオレンジを着ている私たちは、もう何年もボランティアとしてアニマルセラピーの活動をしている者たちです。セラピストとしての認定を持っている人たちです。

エンゼル聴導犬協会、これからも一生懸命ががんばっていきたく思っています。動物と人間が良きパートナーとして過ごせる社会を目指して、今後もいろいろな活動をして参りたいと思っておりますので応援をよろしくお願い致します。犬たちに拍手してください。退場する時に、噛んだりしませんので触ってもよろしいです。人間が大好きです。これからもがんばります。よろしくお願い致します。ありがとうございました。